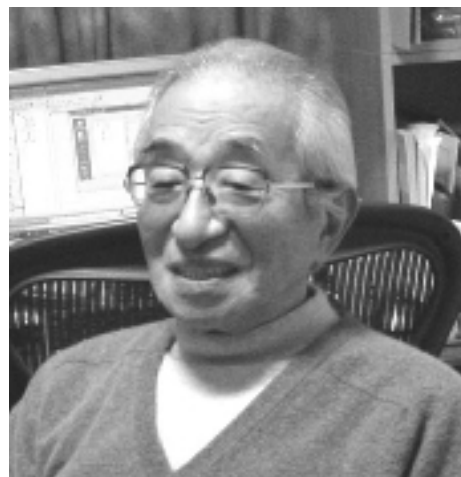


元鳥取県公安委員長

上田務さんが語る

私と九条



上田務さんは

鳥取県歯科医師会の会長を長く務められ、また県の公安委員会委員長という要職を2期務められた方です。県政財界に幅広い交友もあり、どんなお話が聞けるか、楽しみな企画です。

エッセイスト
澤田欣子さんの絵本の
読み聞かせも
準備中です

絵本は、井上ひさし
といわさきちひろの
絵「子どもに伝える
日本国憲法」です

境港九条の会結成 2周年のつとめ

午後1時30分～
2月24日(土)

境港市民会館
大会議室(2F)

ゴスペルオーブ
美しい歌声で
ご参加くださいます



ゴスペルオーブ

心洗われる美しい歌声・・・いま山陰各地の演奏で評判のゴスペルグループ「ゴスペルオーブ」のみなさんが駆けつけてくださいます。ゴスペルとは、黒人霊歌がジャズやロックと結びついた音楽です。



境港市民のみなさん

「憲法を変える」と公約する安倍晋三政権が誕生。この夏の参議院選挙の争点にし、勝利すれば国民の「信任をえた」として突っ走る考えです。

どう考えればよいのか。

境港九条の会結成2周年を迎える記念行事として、今回は、鳥取県の元公安委員長だった上田務さん(鳥取市在住)を迎えて考えます。

また絵本の読み聞かせをなさっている澤田欣子さん(米子在住)にも登場ねがいます。

まわりの方にも声をかけ、ぜひご参加ください。

境港9条の会

連絡先 岩本泰蔵 中野町5083 電話 44-2574

「九条の会」アピール

日本国憲法は、いま、大きな試練にさらされています。

ヒロシマ・ナガサキの原爆にいたる残虐な兵器によって、五千万を越える人命を奪った第二次世界大戦。この戦争から、世界の市民は、国際紛争の解決のためであっても、武力を使うことを選択肢にすべきではないという教訓を導きだしました。

侵略戦争をしつづけることで、この戦争に多大な責任を負った日本は、戦争放棄と戦力を持たないことを規定した九条を含む憲法を制定し、こうした世界の市民の意思を実現しようと決心しました。

しかるに憲法制定から半世紀以上を経たいま、九条を中心に日本国憲法を「改正」しようとする動きが、かつてない規模と強さで台頭しています。その意図は、日本を、アメリカに従って「戦争をする国」に変えるところにあります。そのために、集団的自衛権の容認、自衛隊の海外派兵と武力の行使など、憲法上の拘束を實際上破ってきています。また、非核三原則や武器輸出の禁止などの重要施策を無きものにしようとしています。そして、子どもたちを「戦争をする国」を担う者にするために、教育基本法をも変えようとしています。これは、日本国憲法が実現しようとしてきた、武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の国家へ向かう道を歩むものです。私たちは、この転換を許すことはできません。

アメリカのイラク攻撃と占領の泥沼状態は、紛争の武力による解決が、いかに非現実的であるかを、日々明らかにしています。なにより武力の行使は、その国と地域の民衆の生活と幸福を奪うことでしかありません。一九九〇年代以降の地域紛争への大国による軍事介入も、紛争の有効な解決にはつながりませんでした。だからこそ、東南アジアやヨーロッパ等では、紛争を、外交と話し合いによって解決するための、地域的枠組みを作る努力が強められています。

二〇世紀の教訓をふまえ、二一世紀の進路が問われているいま、あらためて憲法九条を外交の基本にすすめることの大切さがはっきりしてきています。相手国が歓迎しない自衛隊の派兵を「国際貢献」などと言うのは、思い上がりでしかありません。

憲法九条に基づき、アジアをはじめとする諸国民との友好と協力関係を発展させ、アメリカとの軍事同盟だけを優先する外交を転換し、世界の歴史の流れに、自主性を発揮して現実的にかかわっていくことが求められています。憲法九条をもつこの国だからこそ、相手国の立場を尊重した、平和的外交と、経済、文化、科学技術などの面からの協力ができるのです。

私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます。

2004年6月10日

井上 ひさし(作家) 梅原 猛(哲学者) 大江 健三郎(作家)
奥平 康弘(憲法研究者) 小田 実(作家) 加藤 周一(評論家)
澤地 久枝(作家) 鶴見 俊輔(哲学者) 三木 睦子(国連婦人会)

5,000を超えた 九条の会

全国で、境港で
広がる運動

「戦争は二度としない」という憲法九条をなくす・・・「改憲」の動きが、安倍政権になって、いつそう加速しています。

04年6月、大江健三郎、小田実、井上ひさし、澤地久枝、三木睦子など日本の知性と良心を代表する知識人のよびかけ(左に全文掲載)で発足した「九条の会」が、憲法をまもる運動を全国に燃え上がらせています。

全国各地に、思想・信条・宗教の違いを超え、憲法九条を守るという一点で組織された「九条の会」は5000を超え、「日本をふたたび戦争する国にさせない」と、幅広い運動を進めています。

国民の過半数が反対すれば 憲法は変わる

憲法を変えるには国民投票で過半数の賛成が必要です。国会では改憲勢力が多数でも、国民投票で国民の過半数が反対すれば、世界に誇る平和の宝「憲法九条を守る」ことができます。

あなたも一緒に運動を広げようではありませんか。

憲法九条こそ平和の力

あなたもお入りください

境港九条の会



結成集会

05年2月26日・市民会館

境港市でも、80名を超える市民のよびかけで、05年2月26日、126名の市民が参加し、「境港九条の会」が発足。講演会や署名運動、Peace Cafe など楽しいことも織りまぜて活動を広げています。

「らい戦争体験を語り、聞き…」

このなかで多くの市民が「らい戦争体験を語りはじめ、二度と戦争する国にしない」との声を広げあっています。